

まつあい

## 松合地区地域水産物供給基盤整備事業(高潮水門整備)

受賞機関 熊本県林務水産部漁港課

## 事業の概要

平成11年9月に来襲した台風18号により発生した高潮で、不知火町(現宇城市)では12名が亡くなったほか、全壊家屋27戸等の甚大な災害が発生した。

この被災状況にいち早く対応するために、県では高潮による被災要因の究明、被害実態の把握、災害復旧等を考慮した対策手法検討の基礎資料を得るため、学識経験者、行政機関(水産庁、県、町)で構成される松合漁港高潮対策検討会を設置した。また、地元の地区住民、漁協とも意見交換を図るため、地元住民懇談会も実施した。

その後、検討会の高潮対策方針を受けて、具体的な事業実施計画を審議するために、検討会の委員に地元住民代表を加えて、「松合漁港高潮対策実施検討会」を設置し、海岸護岸の嵩上げ、水門設置、地盤嵩上げなどのハード事業と防災無線、防災マップ等のソフト事業が防災対策として検討された。



位置図



高潮対策実施検討会

## 施設概要

## ○ 松合水門

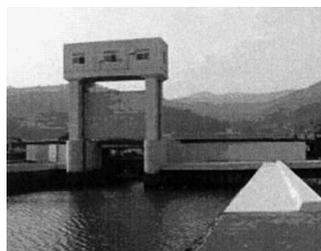
設計高潮位:DL+6.73m

門扉:B=10m、H=7m

## ○ 救の浦水門

設計高潮位:DL+6.73m

門扉:B=10m、H=6m



松合水門

## 事業の整備効果

平成15年9月に松合地区の防潮水門、続いて、船溜まり部の護岸嵩上げ整備が完成し、段階的に整備が進み、さらに平成16年9月には、救の浦地区の防



被災状況

潮水門が完成し、被災から5年という短期間において、松合地区、救の浦地区の防災機能が格段に上がった。

この短期間に事業の実施が図られたことは、復興計画策定時から住民との懇談会やアンケートを実施し住民の意見を取り入れたこと、並びに事業実施工程を地区住民代表と一体となり策定したことによる成果である。

また、計画策定時から完成まで住民と一体となり、整備したことにより、地区住民の中には「自分達も参加した」という連帯感や防災意識の向上にも役立った。

おわりに

近年、自然災害に対する危機管理意識の向上が叫ばれるなかであって、公共施設による防災機能は限界があり、危機管理の情報や意識を地域住民と共有し、行政と地域住民が一体となって防災に取り組むことが必要である。

今回は円滑で早急な事業実施により、高潮対策が短期間で達成することができた。その結果、平成16年度に来襲した台風の際も防潮水門を閉鎖することにより、背後集落地の高潮に対する安全が確保され住民から喜ばれている。

賛助会員 西田鉄工(株)、開成工業(株)